

田園調布学園大学図書館

アクティブ・ラーニングスペース



田園調布学園大学は、平成30年4月、
アクティブ・ラーニングスペースを図書館内に開設しました。

田園調布学園大学は子どもから高齢者まで、人間のそれぞれのライフステージにおいて、保育・心理・教育・福祉を通じて「人」にかかわる人材を養成しています。

そんな田園調布学園大学での学びをアクティブ・ラーニングでイメージすると、そのための場所としてこんな空間が生まれました。

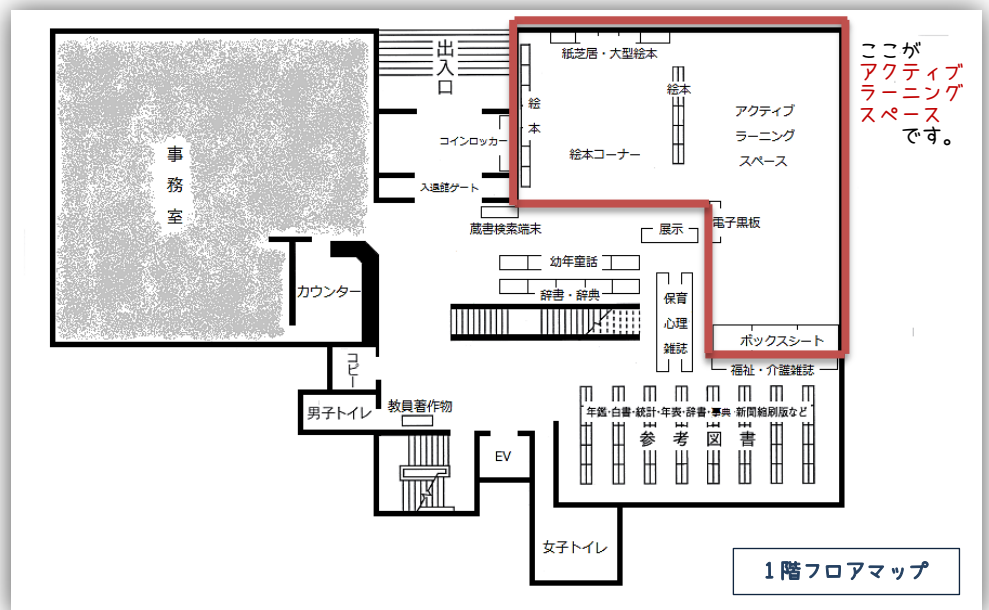
エントランスを入ってすぐ左手、
1階フロアのメイン部分に
アクティブ・ラーニングスペースは
設置されています。
大きな窓に囲まれた、明るくて
開放的な空間です。

田園調布学園大学図書館は、神谷宏治先生の設計で、1994年に竣工しました。神谷先生は日本を代表する建築家丹下健三のもと、あの国立代々木競技場の設計チーフを務めた方でもあります。

神谷先生の建築設計には、
「中心に集う空間を設け、それに付随する
諸機能を円型に展開させる」
という思想があります。

本学の図書館もよく見ると、縦・横に
円型に設計されているのがわかります。

その設計思想を活かし、
このアクティブ・ラーニングスペースを図書館1階の中心に設置しました。



ここが
アクティブ
ラーニング
スペース
です。

1階フロアマップ

田園調布学園大学は、子どもから高齢者までという、人間のさまざまなライフステージにおいて、保育・心理・教育・福祉などを通じて「人」とかかわる人材を育てています。3つの学科はすべて「人」とかかわる仕事に就く人材というキーワードで結びついています。

図書館は、近隣にお住いの一般の方にもお使いいただいている共用施設です。本学の学生の他に、お仕事をリタイアされた高齢者の方、小さな赤ちゃんを連れてご家族、学校が終わった中学生・高校生など、さまざまな方にお使いいただいています。

この
アクティブ・ラーニングスペースも、
もちろん一般の方に
お使いいただける場所です。

共用施設であるからこそ、学生には状況に応じた自己判断ができる力も醸成されていきます。状況に応じた判断ができる力とは、さまざまな利用者がいるなかで自分本位ではなく、まわりのことを考えた利用ができるという、本学の建学の精神「捨我精進」につながる能力です。

またこの空間は、学生が一人で学ぶことばかりを意識してはなりません。学生との交流によって一般利用のお子さんや高齢者の方が得られる学び、本を選んだり遊んだりするお子さんの姿やそれにかかわる保護者の姿から学生が得られる学び、子ども同士、保護者同士、高齢者同士など一般利用の方同士で得られる学びなど、世代・関係を超越互いに学び合うことができるような場所となることをイメージしています。





葉っぱの形をしたテーブルがアクセントに置かれた**絵本コーナー**。
絵本コーナーには約3,000冊の絵本がずらりと並べられ、現在も毎年、300冊程ずつ増えていっています。
本棚などの家具類は、子どもの目線の高さに合わせオリジナルで制作しました。
お子さん自身が自分で読みたいものを選んで取り出せるよう、低めで安定性の高い設計になっています。

テーブルと同じ形をした
おざぶとんもかわいいね！

絵本コーナーにも企画展示を設け
テーマに併せた楽しみ方ができるよう
工夫をしています。



絵本という、「子ども向け」のイメージが強いかもかもしれませんが、絵本には大人の心を癒すもの、高齢者に昔を思い出して元気になってもらうもの、目の不自由な方が触って一緒に楽しめるものなど、さまざまな種類があります。

つまり、大人から子どもまで、そして障害の有無を超えて人と人をつなげる資料、それが絵本です。絵本を通じて人とつながる場所であることを意識してもらうため、隣のオープンスペースとの間に仕切りはありません。



点字付きの絵本のほかに、木製の小道具がついた絵本・音の出る絵本など、仕掛けのある絵本もたくさんあります。

絵本を中心に、
笑顔の輪が
花開きます



オープンスペースにはちゃぶ台のような、高さの低いテーブルが設置されています。

半円、台形、長方形などさまざまな形をしたテーブルは、学修形態に合わせて自由に組み替えることができます。明るい窓辺で、靴を脱いでゆったりとした雰囲気のなか自由に学修することができます。



透明ボードは、専用のクレヨンでホワイトボードとして使えます。
両側からアイデアを書いたり、透けて見える背景を使ったイラストを描いたり、使い方は自由自在！



フワフワのビーズクッションは、体に馴染む素材で楽な姿勢を維持できるほか、組み合わせ次第で椅子にも大変身！
置かれたクッション一つひとつにも、創造性をかきたてる工夫がこらされています。



絵本コーナーとオープンスペース間には、20センチほどの段差があります。これは、オープンスペースで座っている大人と、絵本コーナーにいる子どもの目線が、ちょうど合う高さになるための工夫です。

段差があることによって、オープンスペースにいる学生はとくに意識することなく、絵本コーナーにいる子どもの姿を視界に入れることができます。



3DプリンタやiPad、デジタルペーパーなど最新のICT機器も揃えています。子ども向けだけでなく、障害のある方にも楽しんでいただけるバリアフリー教材を作成することもできます。



知的好奇心を刺激し、論理的思考の醸成にもつながる、プログラミング教材なども、今後導入していく予定です。



オープンスペースの端には、6人掛の**ボックスシート**を3席設置しています。3席ともタッチパネルで操作できるパソコンが設置され、自習やグループ学習だけでなく、少人数のゼミ形式の授業を実施することもできます。

またこの席は、車いすをご利用の方も一緒にお使いいただける十分なスペースがあります。もちろんボックスシートからも、アクティブ・ラーニングスペース全体を見渡すことができるようになっていきます。



ボックスシートから
全体の眺め

田園調布学園大学図書館には、入学時から使える導入書から、大学院生が研究で用いるような高度な専門書まで幅広い分野とレベルの資料が十分に揃えられています。所蔵資料は約11万2千冊の和書・洋書、430種類の雑誌、6千点以上の視聴覚資料のほか、電子ジャーナルは4千種類以上の雑誌を読むことができます。

本や雑誌から得られる知識はもちろん大切ですが、それだけが学びのかたちではありません。

アクティブ・ラーニングスペースを設置した図書館の姿が、人とのかわりから得られる学びも大切に、田園調布学園大学の姿勢を表しています。

数字でみる 学修状況の変化

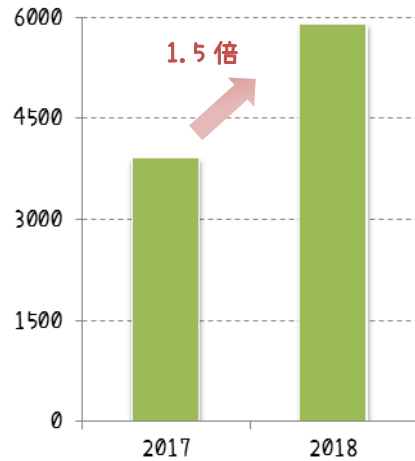
アクティブ・ラーニングスペースの開設により学生の学びのスタイルがどのように変化したか、統計から見てみましょう。

※ 棒グラフは、4月～5月の学生の利用状況を示しています。
(一般利用者・教職員は除いています)

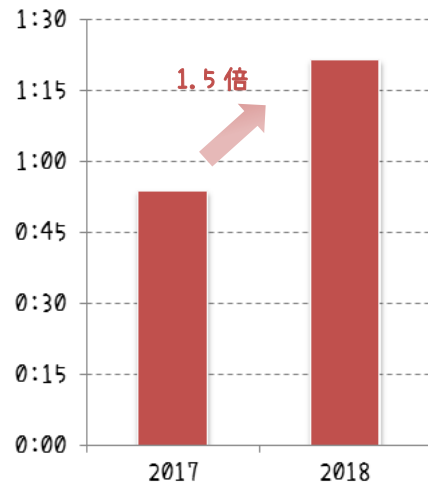
例年、4月5月は1年の中でも図書館に来る学生の数が多い時期ですが、入館者の数は昨年に比べて1.5倍になりました。

実際に図書館に来ることによって新しい資料と出会えたのか、貸出冊数も伸びています。もしかしたら、今まで図書館にちょっと苦手な意識を持っていた学生も、「来てみたら意外といい資料があった!」「ちょっと読んでみようかな…」なんて感じてくれたおかげかもしれません。

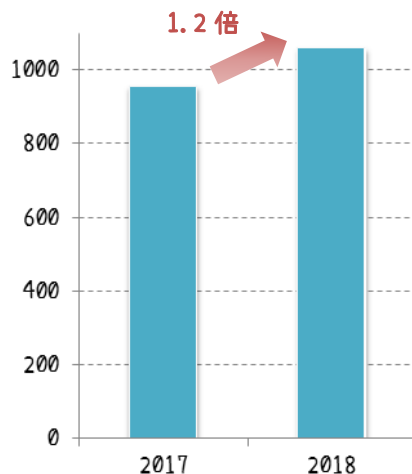
【学生入館者数の推移】



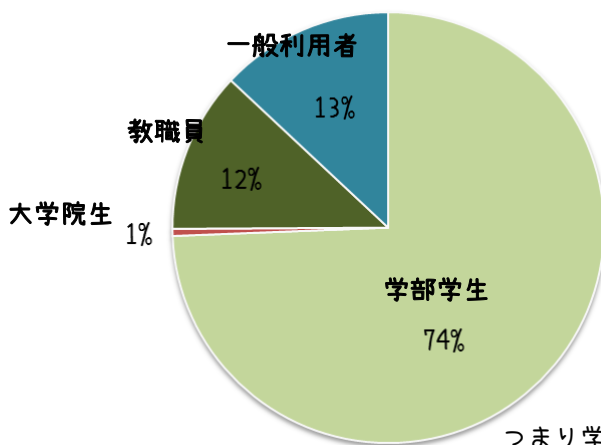
【平均滞在時間の推移】



【貸出冊数の推移】



【図書館利用者の割合】



また、図書館の平均利用時間（滞在時間）を見てみると30分近く長くなっていることがわかりました。

今までは、たとえばレポートの課題図書など、少しの探索時間で目的の資料をぱっと借りて帰るような利用が多く感じられていましたが、じっくりと座って調べ物をしたり、お友達と一緒に勉強したりする姿が多く見られるようになりました。

それが、滞在時間が長くなっている傾向に表れているようです。

これは、本年度の4月～5月の図書館利用者の割合を示したグラフです。

もちろん、学部の学生の利用が一番多いですが、注目していただきたいのは一般利用者の割合です。実は教職員と同じくらいの割合で、一般利用者の方が利用されています。

つまり学生は、図書館に来れば先生方にお会いするのと同じくらい一般利用者の方に出会うチャンスがあります。

共用施設であることを強調してきましたが、図書館はこれだけ地元の方に親しまれた施設になっています。グラフには表していませんが、一日の中で図書館内に一般利用の方がいらっしやらない時間帯は殆どありません。